様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 １９ 日現在

機関番号：３２６７２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ０１６９２

研究課題名（和文）オリンピックの臨床哲学：人間学的価値からの持続可能なオリンピックに向けて

研究課題名（英文）Clinical philosophy of the Olympic Games: Towards a sustainable Olympic Games from an anthropological value perspective

研究代表者
関根　正美（Sekine, Masami）

日本体育大学・体育学部・教授

研究者番号：５０２９４３９３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：オリンピックのモットー「より速く、より高く、より強く」が決して永遠の理想ではなく、むしろそれがオリンピックにおけるドーピングや商業主義に影響を与えていることを明らかにした。次にH.レンクの「より人間的に」の意味が倫理と達成行為にあることを明らかにした。
最終的に、オリンピックを持続可能にするために必要な思想として、身体的健康のみではなく「多元的に生きる」観点からのドーピング防止教育を提案した。オリンピックの持続可能性を達成するためには、選手へのそのような啓発活動と並んで、オリンピックの価値そのものを批判的に捉える教育の展開が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
従来のオリンピックモットー「より速く、より高く、より強く」に「より人間的に」の思想を加えることで、現代オリンピックが中心価値である達成価値を損なわずに選手の健康と生命を守る倫理を実現するためには、競技種目そのものの在り方が問われるといえる。また、ドーピング防止教育は身体的健康への配慮だけではなく、「善く美しく生きる」「多元的に生きる」点から行われることの必要性が明らかとなった。このことは、選手のキャリア教育と結合することで、オリンピックを目指す選手に対して臨床的効果を持つことが期待される。

研究成果の概要（英文）：The Olympic motto "Faster, Higher, Stronger" is by no means an eternal ideal, but rather that it is influenced by doping and commercialism in the Olympic Games. Next, it was shown that H. Lenk's "more human" meant ethics and the act of achievement.
Finally, we proposed anti-doping education from the perspective of "living pluralistically" rather than only from the perspective of physical health as a necessary idea for the sustainability of the Olympic Games in this study. In order to achieve Olympic sustainability, alongside such awareness-raising activities for athletes, education that takes a critical view of the Olympic values themselves is necessary.

研究分野：体育学

キーワード：より人間的に　多元的生　ドーピング　商業主義

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

現代のオリンピックはクーベルタンが再興して以来、平和や教育といった人間的な価値を掲げつつ普及発展してきたことは事実である。だがその一方で、ドーピングや商業主義、政治との関わりといった観点からオリンピックに対して批判的な言説もある。クーベルタンは教育改革と人間の生き方の創造、そして平和への貢献を念頭に置いて近代オリンピックを再興した。それらは、現代のグローバル化された世界における普遍的な価値である。だが、現代のオリンピックにみられるドーピングや商業主義といった現実は、それらの価値から遠く離れた地点にあるといえる。レンクはその 2006 年の講演の中で、オリンピックのモットー「より速く、より高く、より強く」に「より人間的に、より美しく」を加えるべきとの思想を語った。この人間性を加味した思想がオリンピックの病理にどのように作用し、現代オリンピック改革への道筋になるかは示していない。本研究の着想にいたった経緯は、まず、研究代表者が日本体育学会のシンポジウム（1996,千葉大学）で「現代オリンピックの改革論」を担当した時点に遡る。そこで現代オリンピックの改革論を発表し、次いでドイツの哲学者ハンス・レンクのスポーツ哲学研究の一環として 2006 年のレンクによる講演「An anthropology of the Olympic athlete: Towards a modernized philosophy of the Olympic」を翻訳し（畑、関根、2006）、現代オリンピックを改革する方向として人間学的知見の必要性を認識した。2015 年には、国際スポーツ哲学会にて科研費（研究課題 24300211）の研究成果として「Olympic and Peace: Structure of individualistic solidarity」（Sekine,2015）と題する研究発表を行いオリンピックからの人間の連帯可能性を明らかにした。そして 2016 年に発表した論文「近代オリンピックの理念から新たな哲学へ」において、研究代表者は「より人間的に」の意味と創造的、能動的な人間の生との関連を明らかにした。しかしながら、そのような概念とオリンピックが伝統的に持っている西洋的人間観の影響、東洋的人間観の可能性などは明らかにできず、オリンピック改革との接点も課題として残された。

２．研究の目的

この課題を明らかにするために、「オリンピックの臨床哲学」を本研究課題として提案するにいたった。本研究提案で使用される「臨床哲学」とは、「実際の現場で起こっている問題に対して治療の観点から患者の立場に立って新たな観念や思考を生み出す」ことを意味する。本研究提案でいうならば、オリンピックの理念とドーピングや商業主義による現実との乖離によって、オリンピックの価値に起こっていることが病理問題になり、オリンピックそのものが患者であるといえる。オリンピック廃止論のような死を宣告する立場ではなく、オリンピックの病理に寄り添い、今後オリンピックが生きながらえるための方策を、「より人間的に」という思想から紡ぎだすことが、本研究における「オリンピックの臨床哲学」である。

３．研究の方法

諸問題の中でも最も顕著に問題が表れていると思われるドーピングと商業主義に現代オリンピックの病理を定めて臨床哲学の対象とする。１年目の 29 年度は「臨床」の対象に向かうための方法概念である「より人間的に」の「人間的であることの意味」について明らかにする。２年目の 30 年度は現代オリンピックの抱える現状を本研究のキーワードである「ドーピング」と「商業主義」の観点から明らかにし、「より人間的に」からの改善可能性を検討する。３年目の令和元年度は「より人間的に」から改善されたオリンピックの再生された理念を明らかにする。最終的に、オリンピックを否定するのではなく、現代オリンピックが抱える病理を改善した上で、これからの未来に続くオリンピックの理念を提示する。

４．研究成果

まず、研究の主な成果について記す。

(1) 現代オリンピックが示す病理をドーピングと商業主義と規定した。ドーピングは 1960 年のローマ大会で死者を出して以来、旧東ドイツにおけるドーピングを始めとして常にオリンピックの価値を揺るがす問題だった。一方の商業主義は 1984 年のロサンゼルス大会以降、オリンピック開催に常につきまとい、スポンサーの大会プログラムへの影響も明らかになっている。これはオリンピック大会の自律性に関わる問題である。この二つの病理に対し、大会の変革を示唆するための思想的根拠を探った。特にレンクのオリンピックモットーの提案である「より人間的に」の思想に焦点を当てた結果、次のことが明らかになった。まず「より人間的に」の意味するところは競技力や達成力を弱める事を意味するのではない。つまり、人間の達成行為を抑制する意味で捉えられるべきではなく、生物学的に限界づけられている人間がその状況の中で成し遂げることを意味する。したがって、オリンピックを「より人間的に」方向づけることは競技力も含めて競技者の達成行為を否定することではない。ドーピングに関してはレンクによる 2010 年文献のから、競技者の生命の危機を回避することの中にトップレベルスポーツにおける人間化の意

味が明らかになった。
これらの知見を得ることとなった一次文献は以下の通りである。①Lenk, H. (1977) Humanisierung im Hochleistungssport: Pragmatisches und Programmatische zur Ex-Aktiven und Ex-Trainers. In: Lenk, H. (Hg. 1977) *Handlungsmuster Leistungssport.* Karl Hofmann, S.94-111. ②Lenk, H. (1985) *Die achte Kunst. Leistungssport—Breitensport.* Interfrom. ③Lenk, H. (2010) *Sport von Kopf bis Fuss(ball).* Lit.
(2) ここから導かれる「より人間的なオリンピック」は、競技者の健康や生命を脅かさないスポーツの祭典を意味している。ドーピングの禁止理由はこれまで複数あげられているが、アンチドーピングを IOC に意識させたのは、1960 年ローマ大会での選手の死亡事故であった。複数のドーピング禁止理由の中でも選手の健康と生命を守るための理由は、IOC のアンチドーピングへの態度と「より人間的なオリンピック」の方向性とが一致する点である。そしてもう一つ、「より人間的に」の意味について明らかにした点は、近年のテレビと大衆が選手に求める親しみやすさとは異なる点である。ここでの「より人間的に」の原理は「第二の自然としての達成行為」である。この原理はスポーツの歴史上、たとえば走り高跳びにおけるフォスベリーの新たな技術に見られる。それはいわば、人間の能力の改良改善を意味する。この第二の自然が記録更新と勝利の手段として使われる場合、達成行為はスポーツの道具となる。人間の能力改善のための達成行為としての第二の自然を自己目的的に使う態度にドーピングとは無縁なスポーツ行為があることを導き出した。
(3) ドーピングの危機とその克服について、もう一つの論点から考察を行った。それが遺伝子ドーピングの出現と予想される問題である。オリンピックにおけるアンチ・ドーピング活動は、これまで主に薬物に対する対処と競技の正常化を図ってきたが、これからは遺伝子ドーピングの出現が予想されている。遺伝子ドーピングによる危機を加えた「より人間的なオリンピック」の考察を行った。その結果、遺伝子ドーピングにおいてはゲノム編集者を含む広範な関わりが明らかとなり、選手の健康や生命に関わる人間や責任の範囲が広範囲にわたることを指摘した。これらは、ハーバーマス、ガダマー、サンデル、レンクらの文献研究から導き出された。この遺伝子ドーピングに焦点をあてたオリンピックにおけるドーピング防止教育は身体的健康への配慮だけではなく、「善く美しく生きる」「多元的に生きる」点から行われることの必要性が明らかとなった。とりわけ「多元的に生きる」思想は選手の競技における道徳性を超えて、人生を善く生きるためのドーピング防止の指針となり得る。このことは、選手のキャリア教育と結合することで、オリンピックを目指す選手に対して臨床的効果を持つことが期待される。
次に得られた成果の国内外における位置づけとインパクトについて記述する。
(1) 従来のオリンピックモットーは今もオリンピックの価値を語る際に使われている。しかしながら、本研究はオリンピックを価値づけると思われているモットーがオリンピックの危機を招いている点を明らかにした。それは、次の二つの点から言える。まず一つは記録と勝利の価値が増大する事に伴う競技の危険性へのエスカレーションである。これまでオリンピックの価値原理とされ疑問視されることがなかった従来のオリンピックモットーの限界を明らかにできた点は、社会的にインパクトを持つと思われる。そして、その対処法として H.レンクが提唱した「より人間的に」を加えることの意味を明らかにできた。現代オリンピックが中心価値である達成価値を損なわずに選手の健康と生命を守る倫理を実現するためには、競技種目そのものの在り方が問われるといえる。
(2) 次に述べる今後の展望とも関係するが、IOC が主導してきたオリンピックの価値提唱への批判である。IOC の特権体質とユーロセントリズム（ヨーロッパ中心主義）に対しての批判はこれまで数多くなされてきたが、オリンピックの価値そのものに対する批判はあまり為されてこなかった。それに対し本研究において未だ不十分な論考にとどまってはいるものの、IOC を含むオリンピック価値措定者側への批判の必要性が明らかにされた。
次に今後の展望について記述する。
(1) これまでの知見から、ドーピングで選手の健康と生命が脅かされるのであれば、オリンピックの持続可能性は危ういといえる。この選手の健康と生命の危機という視点は、オリンピックの商業主義と結びついて、さらなる展開が予想される。それが「見栄えのする」競技プログラムの導入と競技ルール・方式の激化である。これは例えば、冬期オリンピックにおけるスキー滑降コースの難易度の問題として、レンクによって指摘されている。つまり、競技が魅力的であるためにはスキーの滑降コースは危険なものでなければならないのかとの問題である。コース難易度の問題はレンクによって倫理的問題として扱われている。これはさらに、冬期オリンピックにおけるアクロバチックな競技種目の増加をどのように評価すべきかとの問題につながる。レンクは滑降コースの問題で「死者が出てはじめて、スキーのコースを緩和すべきなのだろうか」（Lenk, 1985, Die achte Kunst, S.54）と述べたが、競技における危険性の増大は、みるスポーツの価値の増大によって商業主義と結びつく。テレビの時代にあって、ドーピング問題と並んで商業主義でも選手の健康と生命に及んでいる。オリンピックが持続可能であるためには、招致活動における不透明な金銭問題のみならず、スポンサーの影響力がテレビの力を通じて選手の健康と生命を脅かすところまで及ぶことを認識し、競技そのものについて選手の安全を確保する必要がある。

(2) もう一つ、最終年に行ったオリンピック教育の観点からのオリンピック改革の方向性について、オリンピック教育教材 OVEP の分析から学校教育よりも生涯学習としての妥当性が推測される。この点に関してはさらなる憲章が必要である。
(3)「得られた成果の国内外における位置づけとインパクト」の (2) の記載事項と関係する点で、次の事がいえる。オリンピック教育では教育関係者における批判的思考が希薄であることから、教育機関などの関係者の商業主義オリンピックへの無批判的態度の改革に、オリンピック病理改善への鍵があることが示唆された。ただし、この点についてもさらなる検証が必要である。オリンピックの臨床哲学は、選手と競技関係者のみではなく、オリンピック教育関係者にも関わる。それはオリンピクの価値を批判する態度に表れ、ドーピングと商業主義の病理改善に向けて必要なことといえる。この点についての詳細な研究は次の課題となる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 関根正美	４．巻 No.4
２．論文標題 オリンピックの哲学的人間学：より速く、より高く、より強く、より人間的に	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本体育大学　オリンピックスポーツ文化研究	６．最初と最後の頁 91-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Geoffery Z. Kohe, Ai Aramaki, Masami Sekine, Naofumi Masumoto and Leo(Li-Hong) Hsu	４．巻 －
２．論文標題 Conceptualising L'Space Olympique: Tokyo 2020 Olympic education in thought, production and action	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Educational Review	６．最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/00131911.2021.1874308	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　1件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 Leo Hsu, Naofumi Masumoto, Masami SEKINE and Ai Aramaki
２．発表標題 A critique of the IOC's Olympic Values Education Program: Philosophical perspectives
３．学会等名 The 47th Annual Conference of the International Association for the Philosophy of Sport（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 関根正美
２．発表標題 「より速く、より高く、より強く、より人間的に」をめぐる議論：H.レンクの哲学からのオリンピック批判
３．学会等名 日本体育学会第69会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sekine Masami
２．発表標題 The philosophical anthropology of the Olympics: Crisis and sustainability
３．学会等名 The 46th Annual Conference of the International Association for the Philosophy of Sport（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sekine Masami
２．発表標題 Coaching philosophy: What is Hans Lenk's democratic coaching?
３．学会等名 Annual Conference of PE & Sport Academic Societies in Taiwan（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関